



最低気温が0℃となり、行く先々の池に張った氷が子どもたちの関心を引き、立ち止まることが多くなりました。観察項目は少な目でしたが、越冬する昆虫の姿や春を待つ植物の様子などが随所に見られました。

この日の観察はカエル池の氷から始まりました。子どもたちが手を伸ばして氷を取り、その厚みを調べました。オタマジャクシ池の氷は厚く張っていて定規で測ると最大で6mmほどでした。マサキの実が開いて赤くてツヤツヤの種が顔をのぞかせていました。その頭上にはカラスウリの実がなっているのが見えました。



厚さ6mmの氷



マサキの実



カラスウリの実

足元の草むらで子どもが見つけたのはバッタの仲間の中で唯一成虫で越冬するツチイナゴでした。タラヨウに実がたくさんついていました。葉を観察していると新年のメッセージが書かれたものが見つかりました。



ツチイナゴ



タラヨウの実



タラヨウの葉に書かれたメッセージ

クコの実を見に行くと、これもまたきれいな赤い光沢を放っていました。中道を進むと、道端のツツジの中にはすでに若い葉が芽吹いているものもありました。畑の南側のソシンロウバイが咲き始めていました。



クコの実



ツツジの新芽



ソシンロウバイ

つどいの丘ではエノキの根元でゴマダラチョウの幼虫を探しました。この日出発してすぐのオタマジャクシ池のそばのエノキでは見つかりませんでした。こちらでは越冬幼虫を観察することができました。同じ場所でも参加者の男の子がリュウノヒゲの青い実を見つけて教えてくれました。リュウノヒゲはジャノヒゲという別名があり、今年の干支と来年の干支を兼ね備えた名前であると話す参加者がいました。つどいの丘のコウバイはつぼみが膨らみ始めていました。一方すぐそばのハクバイのつぼみはまだ固いものばかりでした。



ゴマダラチョウの幼虫



リュウノヒゲ



コウバイのつぼみ



炭焼き広場の東の生垣に白い花が咲いているように見えたので近くで確認すると、花ではなく**イセリアカイガラムシ**という大型のカイガラムシでした。サルトリイバラの赤い実の皮を剥いてみると中は3室ほどに分かれていて、その中に固い種が入っていました。キアゲハのエサとなる**セリ**がどのくらいあるのか調べてみると田んぼの北側の斜面に少し生えていましたが幼虫が育つには足りないように見えました。



イセリアカイガラムシ



サルトリイバラの実



セリ

田んぼの脇のせせらぎのそばのシダの茂みの中に**キタキチョウの死骸**が落ちていました。越冬中にクモなどに捕食されたのではないかとのことです。少し離れて生えている2本の**ヒサカキ**を観察すると、片方には**実**だけがびっしりとついているのに対し、他方には**花芽**だけがついて実はありませんでした。



キタキチョウの死骸



ヒサカキの実



ヒサカキの花芽

田んぼの近くの日陰になっている場所にてきた**霜柱**の上を子どもたちが歩きザクザクとした感触を楽しんでいました。アベマキの樹皮で越冬している**キノカワガ**が見つかりました。樹皮にそっくりな翅の模様のため、ほとんど自立できませんでした。中道沿いの南斜面には**ミツバ**がたくさん自生していて、ここならキアゲハの幼虫が育つかもしいないので、その季節になったらまた探してみようということになりました。



霜柱



キノカワガ



ミツバ

カラスノエンドウやハコベなどのこれから成長する草花の新芽が伸びてきている中に紛れて**ヒメオドリコソウ**がひと株だけ早くも花を咲かせていました。重なり合ったサザンカの葉の間で越冬していたと思われる**ツヤアオカメムシ**が見つかりました。里山の家に向かう帰り道では**ヤマノイモ**の実を観察しました。種はすでにほとんど残っていませんでしたが、光沢が美しくリース飾りの材料になるとのことでした。



ヒメオドリコソウ



ツヤアオカメムシ



ヤマノイモの実

観察項目(観察順):カエル池,池の氷,マサキの実,コバネイナゴ,エノキ,タラヨウ,ハンノキ,クコの実,オオオナモミ,ツツジの新芽,アベマキのドングリ,ドロバチの巣,ジョウビタキ,ソシンロウバイ,リュウノヒゲ,コウバイ,ハクバイ,ゴマダラチョウの幼虫,サルトリイバラの実,霜柱,セリ,ヒサカキの実,ヒサカキの花,キタキチョウの死骸,キノカワガ,ガの繭,ヤマノイモの実,クマザサ,ツヤアオカメムシ,ソウムシの幼虫,グミ,切り株の年輪,ヒメオドリコソウ,シンジュの実,ミツバ,スイセン,オオスズメバチの死骸,セイヨウタンポポ